

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説
(平成 27 年 4 月 17 日)

【三五】子曰く、驥は其の力を称せず。其の徳を称するなり。

蒋介石の「怨みに報いるに徳を以てす」という話は有名です。でも言葉と蒋介石の腹の中では、だいぶ違うなと思います。

戦争で日本にやられて、怨みを抱いているから、怨みには怨みでかえすのが普通だけれども、我々中国人は心の広いところをみせて、徳でかえてはどうかという話が伝わっています。それは賠償金を放棄するということですが、賠償金を放棄するより何より、日本の公共財産や日本の民間企業の財産をだいぶ押えましたが、取りすぎで、これ以上取るのは酷いという話があちこちでありました。また、これ以上取ったら日本から相当怨まれるということに止めたようです。

蒋介石は毛沢東と戦っているのです、日本を仲間に引き込むことによって、毛沢東を叩く意図があった。目の前の敵を仲間にすることによって、本来叩かないといけない敵を叩けるから、恩を着せて自分の敵を叩こうという意図が強烈にあった。日本人は表面の言葉だけを受け取って、蒋介石は良いと広がっていきましたが、ひと皮剥いたらだいぶ違うということです。

胆道先生も言っておられたと思いますが、アメリカは天皇をどう扱えばよいかと苦慮していました。安岡正篤先生は戦犯指名をされましたが、安岡先生を押さえておけば天皇を動かせるという裏の情報があり、蒋介石から安岡正篤先生は大事な人だから無茶なことをしてはいけないとアメリカに流れたので、安岡先生は戦犯指名から外されました。蒋介石は巷に伝わっているだけでもなかったのではという気がします。色々な話が錯綜しています。

蒋介石の評判も最初は良かったのですが、理由は「賠償金を放棄したから」という声が一番多かった。賠償金を放棄した理由を日本とアメリカで詰めていくと、色々なことが表面化してきています。この文章でヒョッと浮かびました。

驥は名馬。一日に千里を駆ける名馬という表現は、関羽の頃にもあります。馬が千里を駆けると同時に、戦の時に自分の主人と敵対している相手を蹴り殺したり、歯で噛み殺したりと荒っぽいことをしていたと伝わっています。

孔子は、千里の馬は蹴り殺す力とか、足の凄い能力、それで世に伝わっているのではない。馬の品格、徳、馬徳みたいなものがあるのでしょうか。馬徳がどういうものかは分かりませんが、見るからに馬の王様みたいな品格がある名馬である。徳のほうを褒め称えて後

世に伝えなければならないと孔子は理解している。そう考えればよいと思います。

今の時代にあわせれば、馬というより人間で考えてみます。豪腕ぶりをいわれた、田中角栄さんはものすごい力で、自分の考え方を押し通して実行していく人間ブルドーザーと言われました。そういう力をもっていた田中角栄さんも人徳がないために、人生の最後は一気に坂を転げ落ちていったという例だと思えます。ただ田中角栄さんはアメリカの裏の力でやられたという話が、当たり前話になっています。

昔の総理大臣をあてはめていけば、力を称するのか、徳を称するのか。はたまた自分の力を考えてみて、徳なのか、力なのかと見直してみる必要があると考えると良いと思えます。